決 算 説 明 資 料

（2019年12月期 決算）

2020年2月7日
東証2部

オーナンバ株式会社

目　次

ONAMBA CO.,LTD.

Ⅰ．決算の概要（PL、BS、CF等）

Ⅱ．2019年12月期のトピックス

Ⅲ．2020年12月期の経営戦略

Ⅳ．2020年12月期の業績予想

Ⅰ．決算の概要

〔連結損益〕

（単位：百万円）

科　目	前連結会計年度		当連結会計年度		増　減		2019年2月6日公表した当初業績予想数値
	金　額	構成比	金　額	構成比	金額	増減率	
売上高	36,430	100.0%	35,750	100.0%	△680	△1.9%	38,000
売上原価	30,239	83.0%	29,637	82.9%	△601	△2.0%	—
販売費・一般管理費	5,326	14.6%	5,257	14.7%	△69	△1.3%	—
営業利益	865	2.4%	855	2.4%	△10	△1.2%	1,000
営業外収支	△3	0.0%	21	0.1%	25	—	—
経常利益	861	2.4%	876	2.5%	15	1.8%	1,000
親会社株主に帰属する当期純利益	449	1.2%	505	1.4%	55	12.4%	550

≪売　上　高≫

太陽光発電関連製品の需要の低下、国内外競合メーカーとの価格競争の激化、米中貿易摩擦の影響による中国の設備投資の伸び悩みなど、依然厳しい状況が続きました。
このような状況の下、当社グループは、自動車・産業機器用製品分野での新規開拓の促進などの施策を進めた結果、ワイヤーハーネス部門の売上の増加をはかることができました。
しかしながら、ハーネス加工用機械・部品部門、太陽光発電関連製品、電線等の売上の減少をカバーすることができず、売上高は35,750百万円と計画を下回り前連結会計年度なみとなりました。

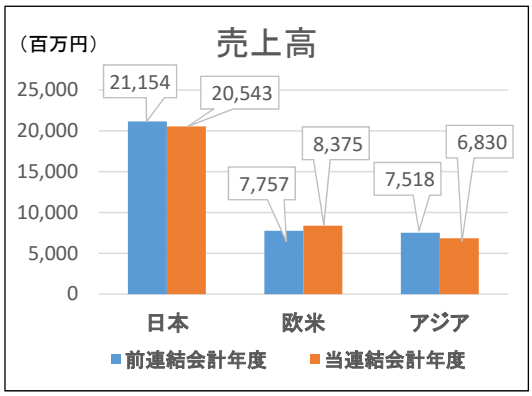
≪営業利益≫

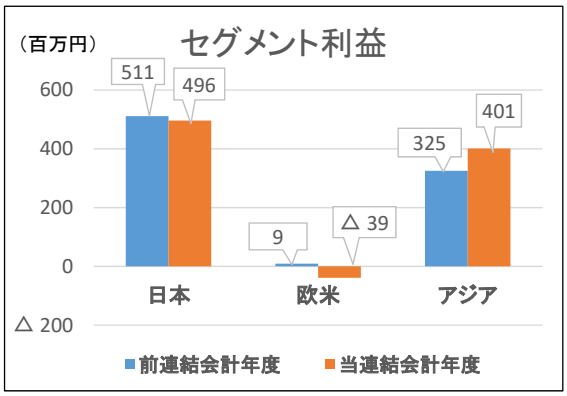
太陽光発電関連製品の売上の減少、北米でのワイヤーハーネス品種構成の悪化、在庫調整に加え、新興国の賃金上昇などによる生産コスト増加などがありましたが、積極的な原価低減、販管費の削減などのコストダウンに取り組み営業利益は855百万円と前年なみとなりました。

≪経常利益、当期純利益≫

経常利益は876百万円及び親会社株主に帰属する当期純利益は505百万円となり、前連結会計年度で発生した事業構造改善損がなくなったことなどにより前年を上回りましたが、計画を下回りました。

セグメント情報





≪日　本≫

産業機器用製品などのワイヤーハーネスの売上が増加したものの、太陽光発電関連製品、ハーネス加工用機械・部品、電線等の売上が減少したことにより、売上高は20,543百万円（前連結会計年度比2.9%減）となりました。売上高減少の影響により、営業利益は496百万円（前連結会計年度比3.0%減）となりました。

≪欧　米≫

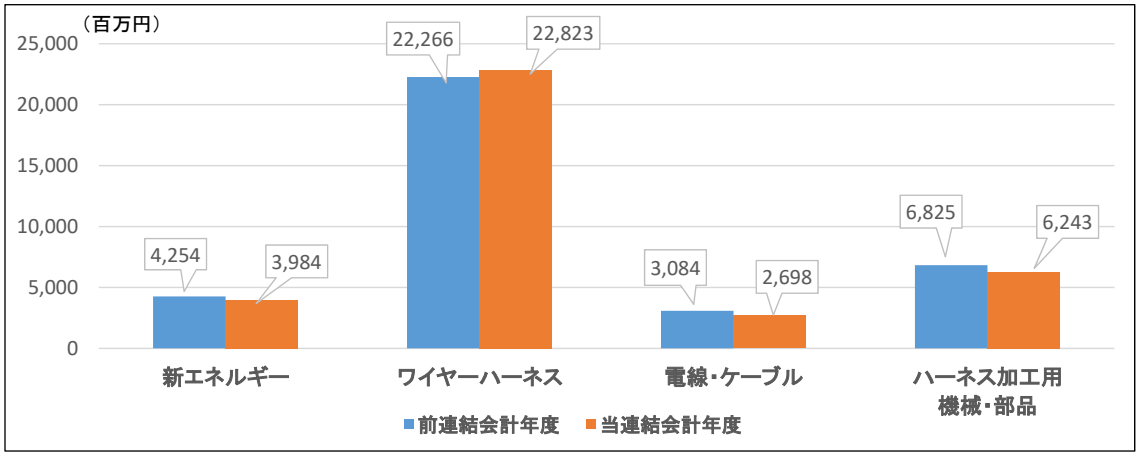
欧州市場の白物家電用のワイヤーハーネスが売上を牽引し、売上高は8,375百万円（前連結会計年度比8.0%増）となりました。北米におけるワイヤーハーネス販売品種構成の悪化やメキシコ工場の人件費高騰、人員不足等に起因したコスト増加などにより、営業損失39百万円（前連結会計年度は営業利益9百万円）となりました。

≪アジア≫

中国に於ける産業機器用製品等のワイヤーハーネスの売上が減少したため、売上高は6,830百万円（前連結会計年度比9.2%減）となりました。中国・東南アジア諸国の賃金上昇による生産コスト増加などがありましたが、品種構成の良化及び事業構造改善効果もあらわれ、営業利益は401百万円（前連結会計年度比23.3%増）となりました。

部門別売上高

ONAMBA CO.,LTD.



≪新エネルギー部門≫

太陽光発電関連製品の需要の減少が続き前年を下回る販売となりましたが、計画を上回る売上高3,984百万円（前連結会計年度比6.4%減）を確保いたしました。

≪ワイヤーハーネス部門≫

グローバルでの営業力の強化により、自動車（主に車載ハーネス）・産業機械用が伸長し前年を上回りましたが、計画を下回る売上高22,823百万円（前連結会計年度比2.5%増）となりました。

≪電線・ケーブル部門≫

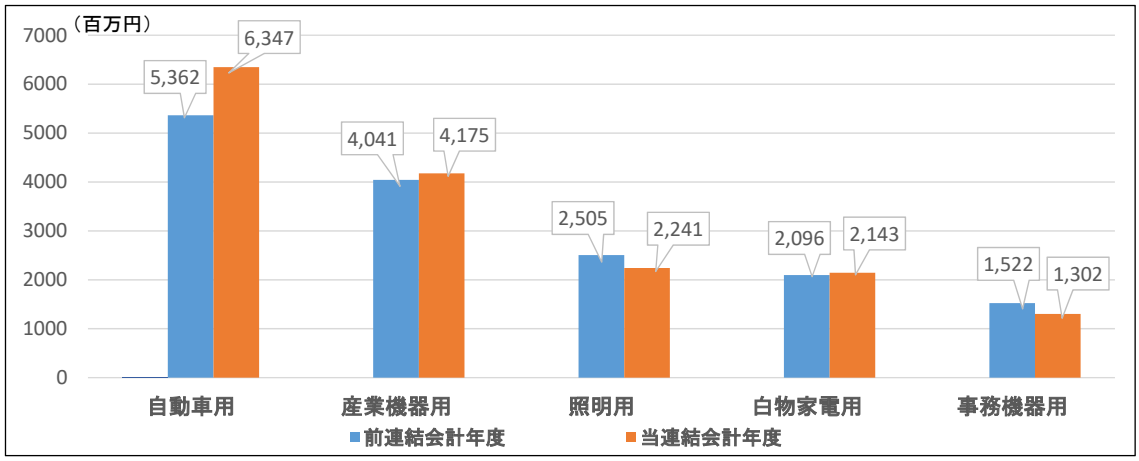
日本国内での産業機器向け電線の需要減少により、売上高は計画を下回り2,698百万円（前連結会計年度比12.5%減）となりました。

≪ハーネス加工用機械・部品部門≫

自動車部品向けの需要が減少し計画を下回る売上高6,243百万円（前連結会計年度比8.5%減）となりました。

ワイヤーハーネスの主な製品別売上高

ONAMBA CO.,LTD.



≪自動車用分野≫

顧客のモデルチェンジなどによる当社搭載製品への切り替えにより6,347百万円（前連結会計年度比985百万円、18.4%増）となりました。

≪産業機器分野≫

中国における景気減速による需要低下により減少しましたが、日本での産業機器ハーネスの拡販努力により4,175百万円（前連結会計年度比134百万円、3.3%増）となりました。

≪照明用分野≫

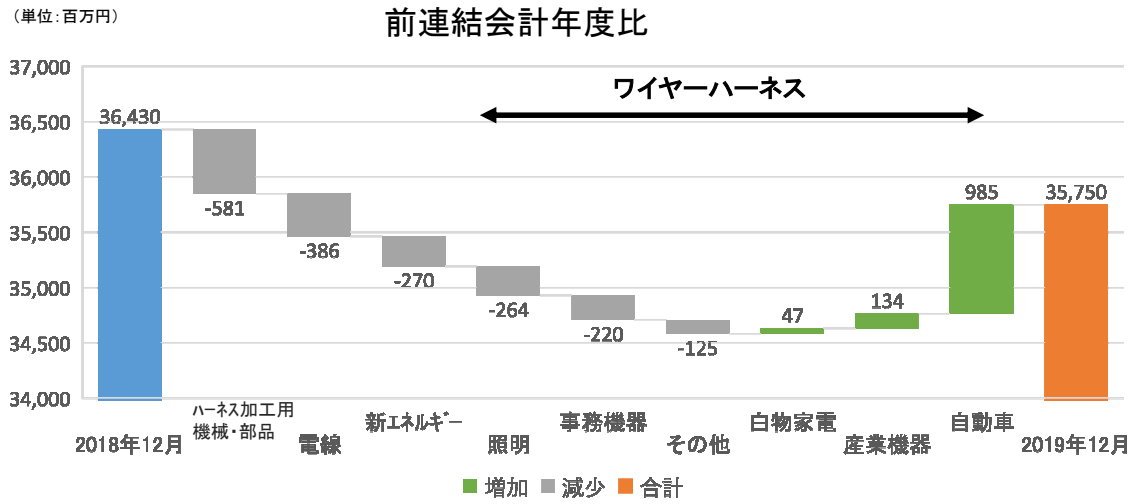
北米における顧客の販売不振が継続しており2,241百万円（前連結会計年度比264百万円、10.5%減）となりました。

≪白物家電用分野≫

欧州における空調用ハーネスが堅調に推移したことにより2,143百万円（前連結会計年度比47百万円、2.2%増）となりました。

売上高の増減

ONAMBA CO.,LTD.



【主な減少要因】

≪ﾊｰﾈｽ加工用機械・部品≫自動車部品向けの需要が減少し581百万円(8.5%減)となりました。

≪ 電線・ｹｰﾌﾞﾙ ≫日本国内での産業機器向け電線の需要減少により386百万円(12.5%減)となりました。

≪新エネルギー≫太陽光発電関連製品の需要の減少により270百万円(6.4%減)となりました。

【主な増加要因】

≪ 産業機器用 ≫日本での拡販努力により134百万円(3.3%増)となりました。

≪ 自 動 車 用 ≫顧客のモデルチェンジなどによる当社搭載製品への切り替えにより985百万円(18.4%増)となりました。

固定資産投資、人員

ONAMBA CO.,LTD.

◆固定資産投資

〇有形固定資産取得額　606百万円

（主な投資内訳）

・国内子会社の電線製造設備等　131百万円

・タイ子会社の建屋増築等　143百万円

・国内子会社のハーネス加工用機械・部品の製造設備等　104百万円

〇無形固定資産の主な投資内訳

・中国子会社の土地使用権取得　101百万円

〇減価償却費　717百万円

◆人員の推移

（人）

2018年12月末	2019年12月末	増　減
3，750	3，975	225

（増減理由）

自動車分野の売上増加に伴い、北米で増加となりました。

連結財政状態（主要な科目）

ONAMBA CO.,LTD.

（単位：百万円）

科　目	2018年12月末		2019年12月末		増　減
	金　額	構成比	金　額	構成比	
流動資産	20,855	74.7%	20,414	71.9%	△440
（現金及び預金）	4,164	14.9%	3,749	13.2%	△415
（売上債権）	10,000	35.8%	9,632	33.9%	△367
（たな卸資産）	6,206	22.3%	6,477	22.8%	270
固定資産	7,071	25.3%	7,971	28.1%	1,020
（有形固定資産）	4,885	17.5%	5,626	19.8%	740
資産合計	27,926	100.0%	28,385	100.0%	459
負債	12,314	44.1%	12,593	44.4%	278
（仕入債務）	6,753	24.2%	6,456	22.7%	△297
（有利子負債）	3,096	11.1%	3,552	12.5%	455
純資産	15,612	55.9%	15,792	55.6%	180
負債・純資産合計	27,926	100.0%	28,385	100.0%	459
自己資本	**14,986**	**53.7%**	**15,166**	**53.4%**	**179**

≪総　資　産≫

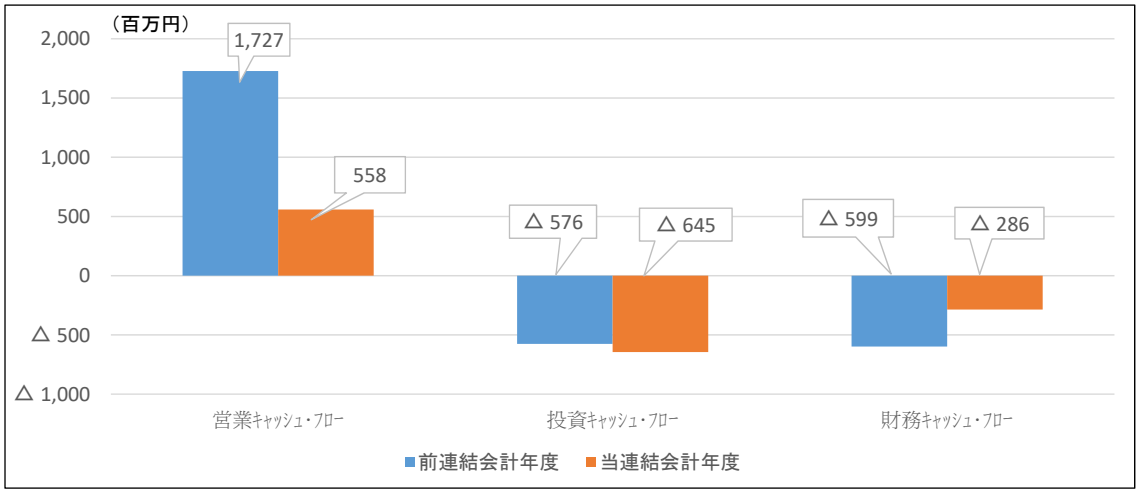
資産合計は、28,385百万円（前連結会計年度末比459百万円増）となりました。主に、現金及び預金415百万円及び売上債権367百万円が減少いたしましたが、たな卸資産270百万円、有形固定資産740百万円及び無形固定資産149百万円が増加いたしました。

≪自己資本比率≫

当期純利益による利益剰余金などの増加により純資産が180百万円増加し15,792百万円となりました。自己資本は15,166百万円となりましたが、総資産の増加により、自己資本比率は53.7%から53.4%（前連結会計年度比0.3%減）となりました。

キャッシュ・フローの状況

ONAMBA CO.,LTD.



≪営業活動によるキャッシュ・フロー≫

営業活動によるキャッシュ・フローは、558百万円の収入(前連結会計年度は1,727百万円の収入)となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益861百万円、減価償却費717百万円、売上債権の減少319百万円、たな卸資産の増加700百万円及び仕入債務の減少209百万円によるものであります。

≪投資活動によるキャッシュ・フロー≫

投資活動によるキャッシュ・フローは、645百万円の支出(前連結会計年度は576百万円の支出)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出606百万円によるものであります。

≪財務活動によるキャッシュ・フロー≫

財務活動によるキャッシュ・フローは、286百万円の支出(前連結会計年度は599百万円の支出)となりました。これは主に、長期借入金の調達525百万円、長期借入金の返済による支出384百万円及び自己株式の取得による支出154百万円によるものであります。

Ⅱ．2019年12月期のトピックス

ONAMBA CO.,LTD.

1．新製品開発・開拓の推進

・E＆Eソリューションシステムに省エネ効率を高めたシステムを拡充

・当社開発のIoT-Finder監視機能で快適湿度空間を提供する自動ミスト加湿システムの上市

・重点分野（自動車/ロボット/環境エネルギー関連）での新規受注

－EV車電動オイルポンプ用ワイヤーハーネス

－協働ロボット用ワイヤーハーネス

2．ものづくり改革の推進

・海外拠点での管理者教育の導入と生産ラインの自動化推進

・次期VTC用自動化ラインの導入

3．海外製造拠点増築、新工場への移転

・中国工場新築/移転（2020年度着工決定）

・タイ工場増築

4．経営基盤見直し強化

・アジア地区各社における新規基幹システムの運用開始

・年功制から成果主義への移行により活性化を図る新人事評価制度の構築

Ⅲ．2020年12月期の経営戦略

ONAMBA CO.,LTD.

1．新製品開発・マーケット開拓の促進

・環境エネルギー／自動車／産業機器／ライフサイエンス／システム分野での深堀りによる事業拡大

・成長分野テーマの開拓と促進

2．ものづくり改革の推進

・ものづくり力向上活動の推進

・生産性10%アップ活動の推進

3．業務基盤の見直し強化

・基幹システム運用効率の向上

・新人事評価制度の運用開始

Ⅳ. 2020年12月期の業績予想

連結損益予想

（単位：百万円）

	2019年12月期（実績）	2020年12月期（予想）	増 減
売上高	35, 750	36, 000	249
営業利益	855	860	4
経常利益	876	860	△16
親会社株主に帰属する当期純利益	505	550	44
配当金	11円	11円	ー

製品別売上予想

（単位：百万円）

項 目	2019年12月期（実績）	2020年12月期（予想）	増 減
新エネルギー	3, 984	3, 600	△384
ワイヤーハーネス	22, 823	23, 000	176
電線・ケーブル	2, 698	2, 900	201
ハーネス加工用機械・部品	6, 243	6, 500	256
合 計	35, 750	36, 000	249

本資料の将来予想に関する記述は、経済情勢や社会情勢の変化により、実際の業績と異なる場合があることをご承知おき下さい。